

気象測器参考館の紹介

深井 智亜樹*

筑波研究学園都市の南の端には気象研究所、高層気象台、気象測器工場の三機関があり、研究・観測・測器試作等の業務を行っている。

この気象庁関係構内の一角に「気象測器参考館」(以下参考館という)が設けられていることは、まだ、あまり知られていない。

この参考館は、昭和54年4月に気象測器の歴史的参考品を保存・展示するため開設されたもので、日本において気象観測が業務としてはじめて実施された明治時代から現在に至る気象測器類が保存、展示されている。

これらの気象測器類は全国の気象官署で定時観測、補助観測、調査研究観測等で使用されたものである。

近年、電子技術をはじめとした各種技術の進歩により近代化が進み、隔測化、デジタル化と同時にセンサー部までが新しい機構に代わってきている。

いま、古い資料を使う場合、それがどのような測器で測られたものかを知ることが必要であろう。

そのためには、当時の測器を知らなければならないので、参考館の展示測器は貴重である。

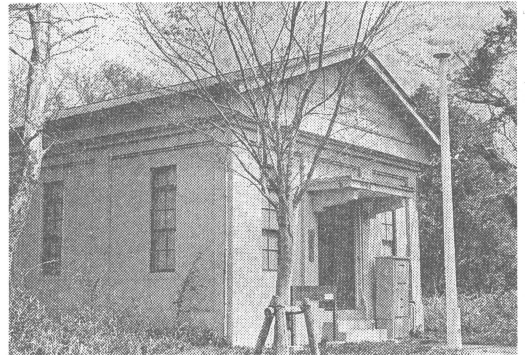
その数は地上気象観測用測器約50点、高層気象観測用測器約100点、地震観測用装置3点等が合計150点余となっている。

建物は大正15年12月竣工で高層気象台の旧書庫を改修したものである。(写真：外から見た建物)

建立当時、大石和三郎台長は、この屋上を盆状にして雨水量を測るますにする目的で計画したが、建築予算不足のためコンクリート面の防水工事がうまくできず、雨量計としては陽の目をみなかったといわれている。まさに参考館にふさわしい歴史的建物である。

また、正面玄関には元気象研究所所長小林寿太郎氏の揮毫による表札がかかげられている。

館内内部は4つの部屋と入口フアローがあり、旧書庫を展示用棚として生かし、そのなかに歴史的価値のある



珍しい測器が展示してある。

その代表的なものに次のようなものがある。

水銀温度計 (L. Casella London 製)

華氏目盛の棒状水銀温度計で感部が球状でなく管を幾重にも折り曲げた形になっているもの。

アラゴ・ダービー日射計 (Casella 製)

明治22年製で感部が白と黒の2本の温度計で日射量を測定するもの。

抜山式風向計

昭和初期に抜山大三博士が考案したもの。

大型3杯風速計

昭和10年頃、岡田武松博士の命により中央気象台で製作したもので3杯の元祖であるが観測に使用したかどうか不明。

ネグレッッチ型自記風向計

ドイツ人のステファンが考案したもので、カムにより風向を540度シフト方式で記録させる。総合気候観測装置、農業気象観測装置等の風向記録方式の原型。

スプリング式自記気圧計

明治10年頃製で天秤式で気圧を水銀の重量の変化で記録させるもの。

自記水銀気圧計

昭和初期製で原型はリシャル社で作られ、間もなく

* 気象測器工場 技術課

国産化したものでサイフォン気圧計に浮子（うき）をのせて気圧を記録するもの。

スタトスコープ

一種の示差気圧計で微気圧の変動を記録するもの。

経緯儀

岡田群司氏の手による国産クロノメーターでゼンマイ時計のうちでは最も正確なもの。

ウイヘルト地震計

明治40年に購入されて以後、全国で昭和50年頃まで使用されたもの。

その他、ショルト式シンクロノーム（時計）などを保管しているが、これを組み立てて動作させるには、いたっていない。

最近、参考館に展示する気象測器参考品が多数収集されているが展示場所がないほどになってきている。

増えることはあっても減らない歴史的測器をどう展示していくか、見学者が、見やすい展示方法の検討など今後の課題は多い。

これらの歴史的測器を見ていると、当時の科学技術の粋を集めて製作されていることに敬服するとともに、その測器を使って、国民の生命と財産を自然災害から守るために、昼夜をわかつた観測を続けた人達の苦勞がしのばれる。

これらは気象測器の原点となるもので、参考館は気象関係者にとって一見に値するものである。

なお、この参考館は気象測器工場が管理している。

見学可能時間：月曜日～金曜日 10時～15時

見学申込み：電話による事前申し込みが必要。

問い合わせ：気象測器工場 深井 0298 (51) 4122

日本気象学会誌 気象集誌

第II輯 第65巻 第3号 1987年6月

矢野順一：木星型大気の力学についての基本的考察

第I部 運動の深さとエネルギー源

矢野順一：木星型大気の力学についての基本的考察

第II部 大気層の力学

宮原三郎：熱帯季節内振動の簡単なモデル

Philip E. Ardanuy・T.N. Krishnamarti：Nimbus-7 ERB から推定される発散風循環：1982—1983 ENSO現象への応用

新田 勅：熱帯西部太平洋の対流活動と夏期北半球大気循環への影響

Yi-Leng Chen：東大西洋上における中規模対流系が周囲に及ぼす熱力学的効果

Tsing-Chang Chen・Ming-Cheng Yen・Durgap Nune：南半球夏期の中間スケール波動の力学

時岡達志・谷貝 勇：大気大循環モデルに現われた潮汐について

猪川元興：狭領域スペクトル法に対する一考察

石島 英：M. Estoque：西進する台風に及ぼす台湾の地形効果の解析的研究

井上豊志郎：NOAA-7 の AVHRR 分割窓領域データによる対流性降雨域の推定

和田 誠：南極沿岸域の高気圧下の雲の形成機構

要報と質疑

新田 勅・元木敏博：1986—87年のエルニーニョ発生期における対流活動の急激な発達と強い下層西風流の出現

武田喬男・岩崎博之：東アジアにおける中規模クラウド・クラスターの出現特性

岡田菊夫・小林愛樹智・岩坂泰信・成瀬 弘・田中豊頭・根本 修：名古屋で採集された個々の黄砂粒子の特徴